

滋賀県議会だより



No.88

編集・発行 / 滋賀県議会

6月定例会議の概要

6月20日～7月12日の23日間

6月定例会議では、「平成29年度滋賀県一般会計補正予算(第2号)」をはじめとする知事提出議案17件が上程されました。これらを審議した結果、意見書案2件を否決したほか、いずれも原案のとおり可決または同意しました。なお、諮問案件2件については、知事の決定案はいずれも適当と認めると答申しました。

各委員会では、付託された各議案、請願その他所管事項について審査および調査を行いました。

●平成29年度一般会計補正予算を可決

国庫補助負担金の内定状況等を踏まえて、これに対応するための経費などを盛り込んだ17億5,998万6千円の一般会計補正予算(第2号)を可決しました。

補正予算には、アユ不漁に伴う緊急対策に要する経費のほか、国の「地方創生拠点整備交付金」を活用したビワイチのための道路環境整備に要する経費や道路関係公共事業の経費などが計上されています。

6月定例会議における 質疑・質問から

健康・医療政策

問 国は、2025年問題に向け、平成30年度の診療報酬・介護報酬の改定を含めた大きな変化に向かって、様々な方針等を策定しています。こうした国の動きを受けて、本県の課題とその解決に向けた基本的な考え方を伺います。

答 当面は、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けての体制づくりが課題です。併せて、地域の実情に合った施策が実施できるよう市町と十分に連携して検討を進めることが必要です。

これらの課題解決に向けて、今年度の各種計画策定にあたり、「県民ひとりひとりが輝ける健やかな滋賀の実現」を基本理念として掲げ、これを実現するために、県民の健康と社会参加、自立と支え合いの地域共生社会や高度・専門医療の提供体制等の基盤をしっかりと構築していきたいと考えています。

琵琶湖の保全再生

問 琵琶湖の総合的な保全再生を図ることが困難な状況にあると考えられます。琵琶湖の「活用」が検討され推進され



オオバナミズキンバイの駆除作業

ていく中で、琵琶湖を「守る」すなわち保全再生が優先されるべき仕組が必要と考えますが、今後の課題について伺います。

答 水草の大量繁茂や外来動植物の問題等、琵琶湖には喫緊の課題が山積しています。琵琶湖の総合的な保全再生に向けてのハードルは非常に高く、琵琶湖を「守る」取組に引き続き力を入れていくことが重要であると認識しています。

一方で、琵琶湖を「守る」ためには、「活かす」こととの好循環を推進することも大切です。例えば、環境に負荷をかけないエコ・ツーリズムや湖上スポーツ等、琵琶湖の魅力を体感・体験できるような「活かす」取組を推進することで、琵琶湖の保全再生に寄与する人を育てる仕

組みも必要であると考えます。今年度は、琵琶湖を「守る」ことを基本にしながら、琵琶湖を「活かす」ことが「守る」ことにつながる検討を行います。

県政・財政

問 この度示された「今後の財政運営の基本的な考え方」に沿って、一歩踏み込んだ行財政改革に取り組みということですが、具体的にどうするのか、とりわけ事業費の削減にはどのような視点で踏み込むのか伺います。

答 次期行政経営方針において、財政収支改善に向けた目標設定や事業費・人件費における対応について検討していきたいと思えます。

歳入面では、地域経済の活性化による県税収入の安定確保はもとより、寄附の獲得等の歳入確保対策を強力に推進していきます。

また、歳出面では、大規模事業等に係る見直しの検討等を行っていきます。

具体的には、今後実施予定の大規模事業については、事業の優先度等をしつかり見極め、可能な限り実施時期の調整等を図っていくとともに、既存事業については、最少の経費で最大の効果が得られるよう選択と集中を徹底するほか、不用額の削減に向け、予算積算の適正化等を図る必要があると考えており、

このような視点に立って具体的な検討を進めていきます。

農水産業

問 昨年12月以降、アユ漁がこれまでにない不漁となりましたが、水産関係者への影響を緩和するための支援策と次のシーズンに向けた対応をどのように考えているか伺います。

答 アユは琵琶湖漁業の漁獲量の約半分を占める最重要魚種であり、かつ、養殖業や加工業等、裾野が広く滋賀ならではの食文化を守るといふ点から、今回の不漁の影響はとて大きいととらえています。

そのため、アユの不漁により厳しい経営状況におかれている漁業者や養殖・加工業者を対象に、運転資金借入れのための新たな融資枠を設ける等の支援を行いたいと考えています。

また、アユの資源対策として、人工河川に放流する親アユを当初の予定から10トン追加して合計18トンとします。

併せて、放流した親アユから生まれた稚アユが9月中旬に琵琶



親アユの放流

用語解説 ※ 「2025年問題」… 団塊の世代が2025年(平成37年)頃までに後期高齢者(75歳以上)になり、介護・医療費等社会保障費の急増が懸念される問題。

湖に流れ下るよう、8月下旬から人工河川への親アユの放流を開始し、今年12月から始まるアユ漁において必要な漁獲量を確保できるようにしたいと考えています。

働き方改革

問 県庁では昨年来、長時間労働の実態が問題となり、働き方改革に取り組んできました。そこで、働き方改革についてのこれまでの経過や今後の取組とどのように改善されたのかを伺います。

答 県庁では今年2月に、「長時間労働解消を含めた働き方改革のための4本柱」を定め、緊急行動に取り組んだところであります。

業務の見直しについては、例えば、重複する会議の見直しや時間外協議の原則廃止等に努め、この結果、2月、3月の時間外勤務実績は、対前年同月比で約20%が縮減され、4月、5月についても、約17%が縮減されました。

さらに取組として定着させていくため、組織としての力が最大限に発揮される職場づくりを目指す行動計画を策定したところであります。

この計画では、今年度を制度等の見直しを検討・試行・実践する集中取組期間と位置づけ、これまでの仕事のやり方の見直しや多様な働き方を推進する取

組等を盛り込んでいます。今後、計画の取組状況について進行管理を行い、着実に取組を進めていきます。

スポーツ振興

問 「東京オリンピック・パラリンピック」や「ワールドマスターズゲームズ2021関西」等の大きなスポーツイベントが迫るなか、スポーツによる地域経済の活性化に向けてどのように取組を進めていくのか伺います。

答 スポーツは、観光、食等の様々な分野と融合することにより、新たな価値が生まれ、地域経済の活性化に大きく貢献するものと認識しており、これからの数年間は、スポーツを生かした地域経済の活性化に取り組む絶好の好機です。

4月にニュージブランド・オーランド大会の現地において大会開催による地域活性化の可能性等を調査し、ワールドマスターズゲームズ2021関西は、海外からも多くの参加者が見込まれるスポーツと観光を楽しむ大会となり、滋賀の豊かな自然を生かしたスポーツツーリズムのモデルケースになり得ると認識したところであります。

このため、大会の運営を担う実行委員会には、経済団体も参画いただき、観光等を通じた経済効果を生み出す方策について検討する予定です。

滋賀・びわ湖ブランド

問 平成30年度に計画されている「虹色の旅へ。滋賀びわ湖」をテーマとする大型観光キャンペーンの構想内容と、これによる本県の魅力向上の目標を伺います。

答 本県は、琵琶湖をはじめ特色ある観光素材に恵まれています。今年10月から開催する「日本遺産滋賀・びわ湖水の文化ぐると博」では、市町等と連携し、県内で70を超えるまち歩きや体験プログラム等を組み合わせ、本県の魅力を伝えられるよう工夫した内容としています。

この「ぐるっと博」で弾みをつけ、来年度の大規模観光キャンペーンでは、県内全市町の観光素材を虹色に例えて7つのカテゴリーに分類し、その魅力をつないで県内外へ発信したいと考えています。

この2年のキャンペーンを通じて本県の魅力度を向上させ、人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略で掲げている平成31年の延べ観光入込客数5千万人を前倒しで大きく上回り、また持続できるよう取り組んでいきたいと思えます。

教育施策

問 第2期滋賀県教育振興基本計画の推進において、今

回改定される学習指導要領をどのように位置付けて教育現場に周知し、また関連する教育環境の改善を図ろうと考えているのか伺います。

答 本計画の基本目標である「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」と、学習指導要領の理念は、同じ方向性をもつとらえています。

県では、本計画および国の最新の教育動向をもとに毎年、「学校教育の指針」を作成しており、今年度は、学習指導要領の柱とされる学校教育の改善・充実を図るための教育課程の工夫等について具体的に示しています。

4月に県内の教員に指針を配付するとともに、市町教育委員会等に対し説明会を開催し、周知をしています。今後、さらに学校訪問等を通じて周知等を図っていきたいと考えています。

学習指導要領の改訂に関する教育環境の改善については、小学校外国語教育の早期化・教科化への対応や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、教員の指導力向上等を進めています。



6月定例会議で審議した主な議案

議案番号	件名	結果
(知事提出) 議第76号	平成29年度滋賀県一般会計補正予算(第2号)	可決
議第77号~ 議第80号	滋賀県と滋賀県信用保証協会との損失補償契約に基づく回収納付金を受け取る権利の放棄に関する条例案 ほか3件	可決
議第81号	損害賠償の額を定めることにつき議決を求めることについて	可決
議第82号~ 議第90号	滋賀県副知事の選任につき同意を求めることについて ほか8件	同意
諮第2号~ 諮第3号	退職手当支給制限処分に係る審査請求の諮問について ほか1件	適当と認める

6月定例会議で審議した意見書

番号	件名	結果
意見書7号	「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法の強行採決に抗議するとともにその見直しを求める意見書案	否決
意見書8号	高浜発電所3号機および4号機の稼働停止を求める意見書案	否決
意見書9号	ギャンブル等依存症対策の抜本的強化を求める意見書案	可決
意見書10号	地方財政の充実・強化を求める意見書案	可決
意見書11号	精神障害者への公共交通運賃等割引制度の適用を求める意見書案	可決
意見書12号	登山者等の位置検知システムの導入促進を求める意見書案	可決

6月定例会議で採択した請願

- 精神障害者の公共交通運賃等の割引制度の適用を求める意見書の提出を求めることについて

議会からのお知らせ

- 議員定数検討委員会の設置
平成31年4月に行われる予定の県議会議員の一般選挙に向けて、議員定数等の在り方を検討するため、議員定数検討委員会が設置されました。第1回の委員会は、7月12日に開催され、正副委員長の内選が行われました。
- 9月定例会議の御案内
9月20日(水)から10月13日(金)までの24日間の日程で開催する予定です。
- テレビ放送の御案内
「県議会ダイジェスト」を次のとおりびわ湖放送で放送します。どうぞご覧ください。
＜9月定例会議の放送予定＞
9月25日(月) 代表質問 9月28日(木) 一般質問 9月29日(金) 一般質問
10月2日(月) 一般質問 10月3日(火) 一般質問 10月13日(金) 最終日
各日の夜10時から放送予定です。

福岡県、大分県に見舞金を贈呈

滋賀県議会議員一同(全43議員)は、九州北部の豪雨により被害を受けた福岡県、大分県に対し見舞金を贈呈しました。

この印刷物は古紙パルプを配合しています